2020 年 10 月 1 日発行

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 67
秋号
令和 2 年
(2020 年)

環境ひらかた

ひら環ネット

5 月 30 日に開催した通常総会から早 4 カ月が経とうとしています。
この間、バスイベントや、夏休みの自然エネルギー学校、そして歴史ウォーク等々、例年であれば実施していたであろう事業は、ことごとく中止となりました。
とはいえ、いくつかの事業は、そろりそろりと実施しました。コロナの感染拡大防止に十分配慮しての実施に、緊張しつつもそれぞれの事業を楽しく安全に終えることができました。それらの事業について報告します。

コロナ禍の中 そろりそろりと 事業をスタート！

先ずは、昨年も取り組んだ「エコ宣言」と、ごみ減量推進事業の第 2 弾となる「プラごみダイエット生活　アイデア募集」、そして恒例となった「マイゴーヤ」のとりくみ、夏休み前のミニ講座「天の川で遊ぼう」、更に 9 月にはくらわんか塾「環境基礎講座」をはじめ、上期事業として 7 つの事業を実施しました。詳細は中面をご覧ください。

＊＊＊＊＊目　次＊＊＊＊＊

コロナ禍の中そろりそろりと
事業をスタート！　P 1
上期事業報告・インターン生の声　P 2・3
各部会報告　P 4・5
お知らせコーナー　P 6
環境トピックス　VOL. 33　P 7
環境ミニ知識　P 8

上期の実施事業を

7/23「天の川を遊ぼう」

少し曇り空だったおかげで暑さも幾分ましという天候の下、箱眼鏡で水中観察、ガサガサでの魚捕り、最後は笹舟をつくって競争したりと、子どもたち 22 名と保護者 34 名の参加者のみなさんと自然観察と川遊びを楽しみました。

「エコ宣言」＆「プラごみダイエット生活」アイデア募集

それぞれの応募用紙は市内各公共施設等での設置配布、及び会員さんへの送付に加え、市内 61 校園の協力もあり、20,000 枚強を配布できました。9 月 18 日現在エコ宣言は 120 枚、プラごみダイエット生活　アイデアには 45 人の応募が届いています。それぞれの当選者や、受賞者の発表を楽しみに！！

＊インターンシップを終えて＊

環境ネットワーク会議では、協定を結んでいる関西外国語大学、龍谷大学の 2 校と、NPO 法人ドットジェイピーという団体から毎年春・夏の 2 回、インターン生を受け入れています。しかし今夏はコロナ禍の影響で、大学からのインターン生はなかったのですが、ドットジェイピーから 3 名の優秀な学生が来てくれました。70 時間の研修時間のうち環境ネットでの研修時間は 60 時間。日数にして 12 日間の研修でした。インターン生の企画を、近々みなさんにご紹介できると思いますので楽しみにお待ちください。

京都薬科大学 2 年
蓑手　佑佳

私はインターンシップを通じて、「企画を具体化することの難しさ」を体感させていただきました。一からものを作り上げようとすれば、企画に至った背景、課題の洗い出し、目的と目標の設定、具体的な行動計画の策定、計画の現実性の検討…と、踏まなければいけないステップは膨大にあります。途中で多くの壁にぶつかりましたが、そんな時、的確な助言をくださった皆様、そして意見がぶつかり合いながらも様々な角度から意見を出し合い、切磋琢磨しあった同じインターンシップ生 2 人のおかげで、この企画がきっと成功するであろうと私は確信しております。

ご紹介します！

環境ティールーム
7/9「レジ袋の有料化を考える」

7月1日からレジ袋の有料化がスタートしました。「レジ袋を有料にしてもあんまり意味ないやん！」「レジ袋をもらえなくなったら困るわー」等々いろんな声が聞こえてきます。レジ袋の有料化はどんな意味があるのだろう…そんなことをテーマにお茶をしながらみんなで話しあいました。

9/10「コロナから環境問題を考える」

「コロナで何か変わった？」「環境にも影響があったって？」等、身近な変化に目を向け、コロナの問題が環境にも影響してきていること、また温暖化が進めば新たなウイルス被害が起こるかもしれないなど、話が膨らみました。

環境ミニ講座
8/22「どんぐり工作」

「どんぐりの木」の紙芝居でスタートした講座ですが、子どもたちの参加が少なく残念でした。とは言え、参加者それぞれ素敵な作品の完成に満足されていました。またどんぐりを通して里山保全、生物多様性について知っていただく機会にもなりました。

「マイゴーヤ」

今年も環境情報コーナーで「マイゴーヤ」の取り組みを実施しました。7月の長雨と低温の影響で成育が悪くどうなることかと危ぶまれましたが、何とか2階まで成長し実も収穫できました。この取り組みは、育てる喜びに加え実も収穫できてと、嬉しいものですが、それ以上にマイゴーヤの参加者同士の交流が深まるという楽しさがあります。交流する中で、日常の様々な雑談に加え、環境問題なども話題に上り、話がはずみます

＊インターンシップを終えて＊

関西学院大学1年
小角　昌弘

この2ヶ月間ひらかた環境ネットワーク会議でインターン生として活動することができて非常によかったです。大学や普段の生活では経験できないようなことを経験させてもらい、環境の分野に限らず、社会のマナーや人生の考え方まで幅広く多くのものを得ることができました。1番自分が変わったと感じるのは環境、特に地球温暖化に対する意識の変化です。個人のレベルで全員が行動しないことには何も解決しない！そのことがよく分かりました。この貴重な経験を生かして夢に向かっていきたいです！ありがとうございました！

京都府立大学2年
大久保　朋花

このインターンで環境に対する意識が変わりました。地球上の沢山のいきものが気候変動の被害を受けている事や、環境の危機について世界に訴えている人がいる事をニュースで知ってはいたものの、環境問題に関して自分事に考えられていませんでした。そんな私にとって、後世まで美しい環境を残せるように活動されている方々の生の声を聞けたことは、ここでしか得られない貴重な経験でした。この経験を活かし、今度は、自ら影響を与えていきたいです。ありがとうございました！

部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

「環境くらわんか塾」～環境教育ボランティア講座～9月に開催

ひらかた環境ネットワーク会議の年間の事業計画の一つである「環境くらわんか塾」を９月５日（土)、新規受講者４名を含む 14 名の参加のもと開催しました。

「環境くらわんか塾」は、出前授業担い手養成講座として毎年実施していましたが、今年度は「気軽に参加できる環境教育ボランティア講座」としての開催を目指し、早い時期から環境教育部会と事務局で企画を練り準備を進め、コロナの影響で開催時期は９月にずれ込んだものの感染防止対策を徹底し無事に開催することが出来ました。

しかし残念ながら９月１日（火）に計画していた「環境関連施設見学会」は、見学予定施設の見学許可がおりず中止となりました。

講座は、午前の部ではひらかた環境ネットワーク会議発足の経緯・目的及び部会活動をはじめとする環境ネットワーク会議の事業が、枚方市環境基本計画に基づき三者協働で進められていることの説明や、環境政策室からの「枚方市の環境基本施策と活動の取り組み」の紹介がありました。

本題の「環境基礎講座」では、地球温暖化問題と持続可能な循環型社会の実現に向けたライフスタイルについてパワーポイントを使っての座学をしました。

昼食をはさんだ午後の部では「出前授業のボランティア活動」の“狙い”と“思い”、そして活動実績や課題の紹介に続き、環境出前授業の授業風景のビデオ映像や、授業で使うスライドや機材を用い３件を実例として紹介しました。

最後に全体を通しての意見交換を行い、受講した感想や各自環境問題や環境活動への思いなどを述べてもらいました。その中で受講者から、もっとこのような講座を沢山の方が受講されたらいいのにとの嬉しい意見も出されました。そして「これからは環境、経済、便利な生活の課題を同時に解決していくことが求められている。まずは環境問題の現状を知って一つでも行動に移すと共に、周りの方にも広めていくことが大切である」ということを、まとめとして参加者間で共有しました。

主催者からは、ひらかた環境ネットワーク会議の活動にも関心を持っていただき、自分に合ったボランティア活躍に参画することで自己実現を図ってもらえたらとの思いを伝えました。

まちづくり部会

「まちづくり」は小さなことからコツコツと

まちづくり部会は現在、新型コロナウイルスのためやむなく活動を休止しています。

これまで定期的に行ってきたウォーキングや清掃活動等も、まだ実施することができない状態です。ただ、流行の終息を待つばかりではなく、これまでのように皆さんと楽しく活動できるよう工夫していかなければと思っています。

とは言え、当面は新しい生活様式に沿った「まちづくり」の在り方を考えていかなければいけません。例えば、「まち歩きで再発見」という試み。普段行っている買い物や、運動不足解消の散歩の途中に、いつもより少しだけ注意深く周りの景色を見回してみてください。「昔からあるけどあれは何？」「新しい設備ができている」「壊れかけている塀がある」「道路が陥没している」等、色々と気づくことがあるはずです。そうした再発見がヒントとなり、よりよいまちづくりや地域の防災に繋がっていくのではないでしょうか。

まちづくりのスタートは身近なところから。

まずはご近所からコツコツとはじめてみましょう。

公共交通部会

「わたしたちのまちの電車・バス」写真の公募で公共交通利用促進をPR！

毎年春・秋に実施している「バス！乗ってスタンプラリー」ですが、今年は春に続き、この秋も実施することができなくなりました。その理由は勿論　“新型コロナウイルス”が原因です。コロナ禍の影響はただ単に私たちのイベントができないというだけでなく、当部会で取り組んでいる、「公共交通利用促進」にも大きな影響をもたらしています。

会報誌前号で書いたように、電車・バスの利用客が激減し、交通崩壊を引き起こしているというのです。そこで、部会では、公共交通利用促進 PR として、「私たちのまちの電車・バス」の写真募集を行うことにしました。

電車・バスの写真撮影及び、作品鑑賞という行為を通して、公共交通機関に愛着をもってもらうことで、新型コロナウィルス感染症禍の終息が見込まれた後、公共交通の利用が再び増加していくことを期待しているのです。

（募集要項は 6P のお知らせページをご覧ください）

お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネット会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◇◆後期 ミニ講座と環境ティールームのご案内◆◇◆

お茶をしながら身近な環境問題についてワイワイと話をしてみんなで環境について考える“環境ティールーム”そして、エコクッキングやクラフト制作などを通して、身近な環境問題を考えるきっかけとしての“環境ミニ講座”の後期がスタートします。
それぞれのスケジュール・内容は下記の通りです。詳細は同封のチラシ又は市内各公共施設に設置のチラシをご覧ください

環境ティールーム	環境ミニ講座
10/8 「都市部に田んぼがあるということ」	10/22 「天の川ウォーク」
11/12「プラごみダイエットに特効薬はあるか」	11/26 「空き箱 de お正月飾り」
12/10「再生促進賦課金について考えよう」	1/28 「お餅ピザ作り」
2/18 「気候変動の変化を里山で探してみよう」	2/25 「なんちゃってデコパージュ」
3/11 「地球一個分で暮らそう」	3/25 「タピオカを作ってみよう」

自然エネルギー学校 講演会開催予告

自然エネルギー学校の一環で、講演会の開催を予定しています。日程は未定ですが、11 月開催に向け準備を進めています。講師及びテーマは下記の通りです。日程等詳細は決まり次第 H・P, チラシなどでお知らせします。楽しみにお待ちください

記

テーマ：「再生可能エネルギー100%の自治体と日本のエネルギー政策を考える」
講　師：千葉大学教授　倉坂　秀史　氏

わたしたちのまちの電車・バスの写真募集のおしらせ

わたしたちのまちの電車・バスの写真を募集します。募集要項は次の通り。
対　　象：枚方市内で撮影したもので、電車・バスが入っているものでテーマは自由。
過去に撮影したものでも可。但し未発表のものに限る。
応募方法：下の①～④を記載の上、ひらかた環境ネットワーク会議
（E メール：jimukyoku@hirakata-kankyou.net）までメールで送って下さい
①名前 ②連絡先(郵便番号、住所、電話番号) ③作品タイトル ④思い出など
締め切り：2021 年 1 月 12 日(火)　必着
応募特典：素晴らしい作品には各賞を準備しています
※ 詳しくは同封チラシ又は市内各公共施設に設置のチラシをご覧ください

環境トピックス　Vol.33

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「2020 年 7 月 1 日から始まったレジ袋有料化について」「再エネ利用の強い米」についてです。

◆2020 年 7 月 1 日から始まったレジ袋有料化について

“脱プラスチック”への意識の高まりは、今や全世界に広がっている。わが国でも 7 月 1 日からレジ袋の有料化が義務づけられたが、そのことにより意識や実態に変化は見られただろうか。先ずレジ袋の辞退率から見ると、コンビニ業界における有料化前の辞退率は 30%に満たない状況であったのが、有料化後は、セブンで 75%、ファミマで 77%、ローソンで 75%と、有料化前に比べ一気に増えた。しかし、この辞退率。果してプラごみを減らそうという気持ちからか、はたまた有料なのでもったいないとの気持ちからなのか、筆者としては前者であって欲しいと思うが、朝日新聞が行った有料化についてどう思うかのアンケートで、約 55%の人がレジ袋有料化に意義はないと回答している。

◆再エネ利用の「強い米」」

近年、気候変動により引き起こされている自然災害は年々その大きさが増してきている。特に台風については実感するところではないだろうか。そんな中、横浜市認定の青葉区恩田町堀之内地区まちづくり協議会と産業技術大学は「台風でも倒れにくい稲」をめざし「強い米」プロジェクトとして共同研究に取り組んだ。このプロジェクトは、水田に加えられる用水に再生可能エネルギーを用いてエアポンプを駆動させ空気を送り込み、稲の根の成長を促すことで「台風でも倒れにくい稲」とするもので、送電線からの電気が使えないところでも太陽光発電による再生可能エネルギーを有効活用することで、社会課題の解決を目指すというものだ。

このプロジェクトが、オーストリアで創設された国際環境賞エネルギーグローブ賞の国別部門で、2020 年の「日本受賞プロジェクト」に選ばれた。（9 月 8 日オーストリア大使館商務部発表）受賞理由として、痩せた土壌と台風は、食糧生産、特にアジア諸国における米の生産に影響を与え続けており、このプロジェクトのコメの生育と根の強度を改善する方法は、台風の影響に耐える稲の能力を向上し、米農業が普及しているアジア諸国での食糧の安全保障を改善するのに役立つ優れたものであると高く評価した。

今後温暖化による影響が食糧面や居住地等々、様々な所で出てくることは避けられない事実である。ソリューションテクノロジーの発展に期待したい。

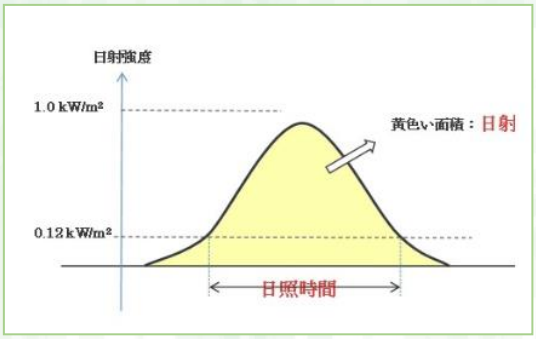
環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。

日照時間と日射強度

今年も環境情報コーナーでは「マイゴーヤ」に取り組みました。7月の長雨による日照不足と低温のため生育が悪く、2階まで来るのかと危ぶまれましたが8月に入りグングン（？）成長し、例年の3分の1程度ではありますが無事収穫もできました。この様に一部の植物を除き多くの植物にとって日照不足は致命的です。

ところで、“太陽光”と一口に言っても、日照と日射、よく似ていますが、前者は時間で後者は量であらわされるように（図参照）違うんですね。皆さんはご存知でしたか？



世界シェア N01 企業が！？

コロナの影響が様々な所・場面で生じています。医療現場や、介護の場、そして、災害時の避難所等々。これらの場面で活躍する世界シェア N01 のあるものを作っている工場が枚方市にあるのです。その会社名は「太洋工業」、作っているのは「テント」知ってました？

ひとこと

この夏、インターンシップで大学生が来ていました。存在だけで周囲が華やぎ笑顔が増えます。

そんな彼らの、色んな事に興味を持ち、物怖じせず実行に移す行動力や、素直に課題に取り組む姿勢、さらに、自分には無い感じ方や発想等々、素晴らしいと感じさせられるところを挙げればきりがありません。彼らの可能性が溢れ出ているように感じます。

また、環境問題は勿論、全てにおいて自分事として真剣に考えている姿など、見習わなければならないことがたくさんあると気づかされました。

若いって凄い！！　（岩）

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第67号

令和２年 10 月１日発行（年４回発行）
発行：（特活）ひらかた環境ネットワーク会議

〒573-0042 大阪府枚方市村野西町５番１号
サプリ村野内（旧村野小学校）
電話　072-847-2286
FAX　072-807-7873
Ｅメール　jimukyoku@hirakata-kankyou.net
ホームページ http://www.hirakata-kankyou.net
発行責任者：伊丹 均　　編集責任者：丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています